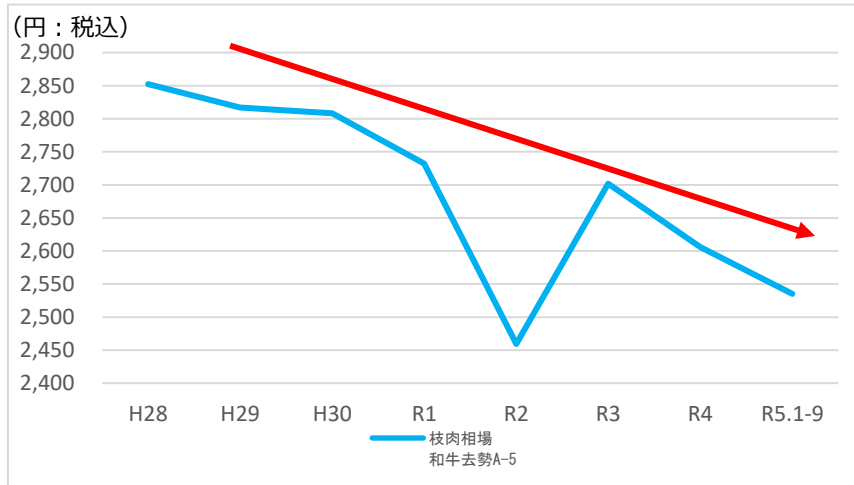


(別紙1) 和牛を取り巻く状況

(1) 枝肉価格の推移

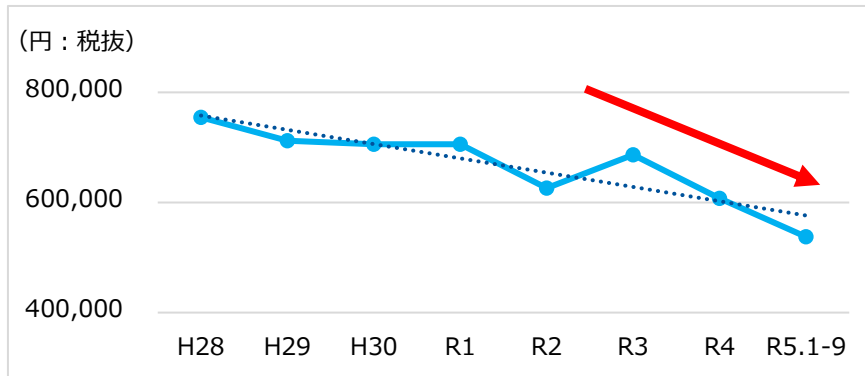
和牛の主たる販路である①高級外食②輸出③インバウンド、がコロナ禍で停滞したことから、枝肉相場は急落しました。国による需要喚起策（補助事業）の効果により、一時、回復したものの、物価上昇等の影響による消費者の生活防衛意識の高まりから牛肉全体の消費が豚肉・鶏肉にシフトし、とりわけ高額な和牛の消費が落ち込んでいることから、枝肉価格は低迷が続いています。



(2) 肉用子牛価格の推移

肉用子牛価格は、生産コストの上昇にともなう肥育農家の経営悪化と末端消費の将来不安を背景に、令和3年度以降、全国的に下落しています。特に令和5年度に入り下落幅は広がり、黒毛和種ではBSE発生時の暴落以来21年ぶりに肉用子牛補給金が発動されるなど、子牛を生産する繁殖経営は日を迫うごとに深刻化しています。

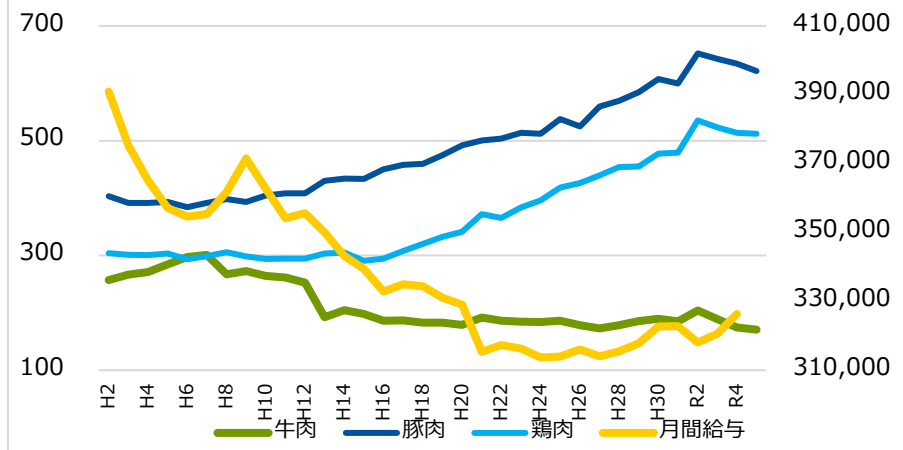
肉用子牛相場の推移 (出典：農畜産業振興機構「肉用子牛取引情報」より)



(3) 食肉消費量（家計消費）と所得の関係

家計消費において豚肉・鶏肉消費が伸びる一方、牛肉消費は低迷を続け、その差は拡大しています。また、消費量の推移に現金給与総額の推移を重ねると、所得の落ち込みと牛肉消費量には相関がみられます。量販店では、販売単価の高い牛肉を「ハレの日」の食材と位置付け、牛肉の販促を給与支給後の毎月下旬にしか行わないなど、販売量が減少しています。特に和牛はその傾向が顕著となっています。

食肉消費量（家計消費）と所得の関係
(グラム/一人/一月)



(月間給与…厚生労働省「毎月勤労統計調査（現金給与総額）」より)
(畜種別消費量…ALIC「畜産物需給の推移（家計消費）」より)

(4) 和牛のライフサイクル

和牛の需給環境が改善しない場合、繁殖農家の離農が加速し、和牛生産基盤の縮小につながる懸念があります。いったん縮小した生産基盤が元の規模に回復するためには、繁殖雌牛の出生～種付～分娩～子牛育成に35か月、子牛の肥育～出荷まで20か月の合計55か月を要します。

